

様式第二号の八（第八条の四の五関係）

（第1面）

産業廃棄物処理計画書	
平成29年 6月24日	
愛知県知事 殿	
提出者	
住 所 名古屋市瑞穂区洲雲町 4-45	
氏 名 株式会社シーテック	
取締役社長 松山 彰	
（法人にあつては、名称及び代表者の氏名）	
電話番号 052-852-6911	
廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。	
事業場の名称	株式会社シーテック 大江分室
事業場の所在地	名古屋市港区大江町3-2
計画期間	平成28年4月1日～平成29年3月31日
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
①事業の種類	総合工事業
②事業の規模	元請完成工事高：105億円（電力本部 大江分室）
③従業員数	396名（電力本部 大江分室）

		(今後実施する予定の取組) 再生処理業者への委託契約を優先的に行い、リサイクル率向上を図る。また優良認定処理業者への委託率向上に努める。
産業廃棄物の分別に関する事項		
	①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) ・建設汚泥、廃プラスチック、コンクリートくず等は、中間処理(脱水、乾燥、焼却、熔融、破碎等)を行って再利用している。 ・再利用できないものは、最終処分(埋立)を行っている。
	②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) ・前期を継続するとともに、特に混合物は廃プラスチック、紙くず、木くず、がれき類等に分別しリサイクル率向上に努める。

(第3面)

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項			
①現状	【前年度（ 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行った 産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行う 産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		

自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項			
①現状	【前年度（ 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行った 産業廃棄物の量	t	t

		自ら中間処理により減量した 産業廃棄物の量	t	t
		(これまでに実施した取組)		
	②計画	【目標】		
		産業廃棄物の種類		
		自ら熱回収を行う 産業廃棄物の量	t	t
		自ら中間処理により減量する 産業廃棄物の量	t	t
		(今後実施する予定の取組)		

(第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項				
1 現状	【前年度（ 年度）実績】			
	産業廃棄物の種類			
	自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行った 産業廃棄物の量	t		t
	(これまでに実施した取組)			
2 計画	【目標】			
	産業廃棄物の種類			
	自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行う 産業廃棄物の量	t		t
	(今後実施する予定の取組)			

産業廃棄物の処理の委託に関する事項			
1 現状	【前年度（平成２８年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	別紙２のとおり	
	全処理委託量	1,338.645 t	t
	優良認定処理業者への 処理委託量	2.401 t	t
	再生利用業者への 処理委託量	1269.602 t	t
	認定熱回収業者への 処理委託量	0 t	t
	認定熱回収業者以外の熱 回収を行う業者への 処理委託量	0 t	t
	(これまでに実施した取組)		
	再生処理業者への委託契約を優先的に行い、リサイクル率向上に 努めている。		

(第５面)

2 計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	別紙３のとおり	
	全処理委託量	1,283 t	t
	優良認定処理業者への処 理委託量	2 t	t
	再生利用業者への 処理委託量	1,219 t	t
	認定熱回収業者への 処理委託量	0 t	t
	認定熱回収業者以外の熱 回収を行う業者への処 理委託量	0 t	t

		(今後実施する予定の取組) 再生処理業者への委託契約を優先的に行い、リサイクル率向上を図る。また優良認定処理業者への委託率向上に努める。
※事務処理欄		

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が 1,000 トン以上の事業場ごとに 1 枚作成すること。
- 2 当該年度の 6 月 30 日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1) ① 欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2) ② 欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3) ④ 欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第 6 条の 11 第 2 号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第 15 条の 3 の 3 第 1 項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が 3 以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「―」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。

別紙 1

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

①現状

【前年度(平成28年度)実績】

廃棄物の種類	排出量(t)
汚泥	674.230
廃プラスチック類	26.640
金属くず	5.201
ガラス・コンクリート・陶磁器くず	69.370
がれき類	362.140
紙くず	5.120
木くず	124.220
廃油	28.150
廃酸	4.625
石綿含有産業廃棄物	1.000
建設混合廃棄物	36.908
廃電池類	1.041
合 計	1,338.645

②計画

【目標】

廃棄物の種類	排出量(t)
汚泥	650
廃プラスチック類	25
金属くず	5
ガラス・コンクリート・陶磁器くず	65
がれき類	350
紙くず	5
木くず	120
廃油	25
廃酸	1
石綿含有産業廃棄物	1
建設混合廃棄物	35
廃電池類	1
合 計	1,283

別紙 2

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

①現状

【前年度(平成28年度)実績】

廃棄物の種類	排出量(t)			優良認定業者への委託量	再生利用業者への委託量	熱回収業者への委託量	熱回収業者以外 の熱回収を行う業者への処理
	電子	紙	合計				
汚泥	674.230		674.230		674.120		
廃プラスチック類	26.640		26.640	0.940	19.945		
金属くず	5.201		5.201	0.420	5.201		
ガラス・コンクリート・陶磁器くず	69.370		69.370		20.783		
がれき類	353.140	9.000	362.140		361.696		
紙くず	5.120		5.120		4.800		
木くず	124.220		124.220		124.120		
廃油	26.050	2.100	28.150		28.100		
廃酸		4.625	4.625		4.625		
石綿含有産業廃棄物	1.000		1.000				
建設混合廃棄物	20.908	16.000	36.908		25.171		
廃電池類	1.041		1.041	1.041	1.041		
合 計	1,306.920	31.725	1,338.645	2.401	1,269.602	0.0	0.0

別紙 3

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

②計画

【目標】

廃棄物の種類	排出量 (t)	優良認定業者 への委託量	再生利用業者 への委託量	熱回収 認定業者への 委託量	熱回収 認定業者以外 の熱回収を行う 業者への処理
汚泥	650		650		
廃プラスチック類	25	1	18		
金属くず	5	1	5		
ガラス・コンクリート・陶磁器くず	65		19		
がれき類	350		350		
紙くず	5		4		
木くず	120		120		
廃油	25		25		
廃酸	1		1		
石綿含有産業廃棄物	1		1		
建設混合廃棄物	35		25		
廃電池類	1		1		
合 計	1283	2	1219	0	0